

点検評価表（外郭団体）

I 団体の概要

（平成30年4月1日現在）

団体名	公益財団法人静岡県文化財団		
所在地	静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号	設立年月日	昭和59年5月22日
代表者	理事長 鈴木壽美子	県所管課	文化・観光部 文化政策課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律		
団体の沿革	昭和59年5月 財団法人静岡県文化財団設立 平成25年4月 公益財団法人に移行		
運営する施設	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ(指定管理)		
団体ホームページ	http://www.shizuoka-cf.org/		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	900,000	85.5
県内35市町	100,000	9.5
県民募金等	1,710	0.1
期末評価益	51,414	4.9
基本財産(資本金)計	1,053,124	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	34
うち県OB	1	うち県OB	1
うち県派遣	0	うち県派遣	4
非常勤役員	18	非常勤職員	1
役員計	19	職員計	35

II 点検評価（団体の必要性）

1 団体の設立目的（定款）

各種の文化及び芸術の振興を図る事業並びに国内外との交流を図る事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって県民生活の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与することを目的とする。

2 団体が果たすべき使命・役割

各種の文化及び芸術の振興を図る事業並びに国内外との交流を図る事業を行うことにより、第4期ふじのくに文化振興基本計画の重点施策として位置づけられている「子どもが文化と出会う機会の充実」「多様な価値観を表現し、尊重する環境づくり」「創造活動の実現と環境づくり」「文化資源の発掘と創造活動による地域の魅力向上」「地域・社会の様々な課題への文化力の活用」「文化を支援する機能の強化」を推進することを目的とする。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会 経済環境の変化や 新たな県民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の文化活動に対する支援や相談を包括的に受ける体制の整備と効果的な情報発信の必要性の高まっている。 ・グランシップがある県中部地区だけでなく、県内各地での文化財団主催の文化事業の開催が求められている。 ・グランシップの施設利用に対する更なる利便性の向上が求められている。
行政施策と団体活動 との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> ・財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与するために県が主体となって設立した団体で、静岡県文化振興基本計画では県の文化振興の中核組織として重点施策推進の担い手に位置づけられている。 ・財団は、県の文化と交流の拠点施設であるグランシップの管理運営を担い、平成18年度からは指定管理者としてグランシップを拠点に多彩な文化振興事業を展開している。
民間企業や他の団体 との関係(役割分担)	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩で、上質な文化芸術に触れる機会を作り出すため、伝統芸能や県民参加型の事業等、民間では採算ベースに乗らない事業を展開する。 ・県域を対象に文化資源の存在や価値の掘り起こし、地域の文化団体への助成、顕彰を実施していく。

4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	H29 決算	H30 予算
自主事業	文化芸術の振興事業 (地域文化活動団体顕彰事業)	新たな地域文化の創造を目指し、県内各地で多彩で優れた文化活動を展開している団体を公募し、顕彰する。	375	500
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業/ふじのくに文化プログラム推進助成)	国が全国的に推進する「文化カプロジェクト」を推進し、県内の多彩な文化芸術活動や、「ささえる」活動を発展・継承し、県内外に発信するため、文化団体等に対して助成する。	3,744	6,750
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業/魅力的な文化力発信)	県内の文化資源の存在や価値を再発見し、文化プログラムの推進につなげるとともに、県民の共有財産として、後世に伝えていくため、書籍を発行する。	98	4,500
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業/中学生鑑賞支援)	文化プログラム推進の一環として、静岡県内の中高生に上質で多彩な文化芸術に触れてもらうため、グランシップ企画事業の鑑賞に要する交通費を全額支援する。	4,390	5,000
自主事業	グランシップ友の会事業	県民の芸術文化に対する関心を高めるとともに、グランシップ企画事業への参加を促し、チケット販売に役立てるため、「グランシップ友の会」を運営する。	2,048	3,300
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化プログラム事業)	文化プログラムの推進に資する文化芸術公演の制作、上演を行う。	0	33,021
県委託	文化芸術の振興事業 (グランシップ企画事業)	県民の文化創造発信拠点であるグランシップを中心に、「上質で多彩、そしてより身近に」を基本として、質の高い公演の招聘や、自ら企画制作する企画事業、催事情報提供事業を実施する。	241,121	255,990
県委託	文化芸術の振興事業 (その他の文化支援)	ふじのくに文化情報センターを設置し、交流・研修の場づくり等、県内の文化活動を側面的に支援するとともに、グランシップ企画事業を活用した人材育成に取組む。	7,843	12,158
県委託	グランシップ管理 運営事業	施設の適正な維持管理及び貸館業務等の円滑な運営を通じて、各種文化振興事業の拠点施設を運営するとともに、文化、芸術、学術及び国内外との交流のための施設の貸与事業及びその他の付帯事業を推進する。	986,421	1,054,491
合 計			1,246,040	1,375,710

5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	H27	H28	H29	評価	
入館者数 (人)	740,000	700,000	700,000	B	(毎年度)
	561,389	728,874	624,442		
企画事業入場者数(文化支援を含む) (人)	125,000	125,000	130,000	A	(毎年度)
	130,785	127,007	138,134		
企画事業子ども学生鑑賞者数 (人)	29年度から設定		5,500	A	(毎年度)
			6,424		
企画事業における満足度 (%)	90.0	90.0	90.0	A	(毎年度)
	95.5	93.0	94.1		
貸館利用者の不満足度(スタッフ対応) (%)	29年度から設定		1.00	A	(毎年度)
			0.04		
企画事業における県民参加者数 (人)	29年度から設定		2,500	B	(平成33年度)
			2,368		
コンベンション開催件数 (件)	40	40	45	B	(毎年度)
	33	40	40		
友の会個人会員数 (人)	2,100	5,000	10,000	A	7,264 (平成33年度)
	5,077	6,580	7,916		
サポート企業数(協賛、協力、法人会員等、団体も含む) (社)	25	100	100	A	(平成33年度)
	29	86	150		
サポーター人数 (人)	29年度変更(活動延人数→登録人数)		180	B	(毎年度)
	157	182	165		
インターンシップ受け入れ人数 (人)	25	25	25	C	(毎年度)
	17	56	19		

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	H27	H28	H29	評価	
	施設稼働率数 (%)	82.0	82.0		84.0
	81.3	83.8	82.6		
施設管理瑕疵に起因する 事故件数 (件)	29年度から設定		0	A	(毎年度)
	0	0	0		
催事開催支援サービス取扱件数 (件)	29年度から設定		1,800	A	(毎年度)
	1,548	1,916	2,039		

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度は、目標達成に向け組織全体で積極的かつ効率的に取り組んだ結果、第4期指定管理計画上の数値目標14項目のうち、8項目(友の会個人会員数を含む)の目標を達成することができた。 入館者数70万人、コンベンション開催件数45件、施設稼働率84%の目標が未達であり、今後、大規模催事の誘致、積極的な営業活動の強化等を図る。 インターンシップ25人の目標が未達であり、今後、大学カリキュラムとの連携も強化し、参加学生の確保を目指す。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度はグランシップ第4期指定管理期間の初年度であり、平成29年度から設定した目標も含めた14項目のうち、8項目を達成することができた。 目標が未達成であった入館者数やコンベンション開催件数、施設稼働率については、密接な関連性があるため、営業活動の強化等により達成されることに期待する。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> 第4期静岡県文化振興基本計画において、県の文化振興の中核機関として施策展開の重要な役割に位置づけられている。 「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」等の施行により役割が増しているグランシップの、第4期指定管理者である。 「ふじのくに文化情報センター」を設置し、交流・研修の場づくり等、県内の文化活動を側面的に支援している。 	○	文化財団は本県の文化振興と文化振興施策推進における役割を担う県内唯一の公益法人であり、平成30年度からの第4期静岡県文化振興基本計画においても、重点施策の主な具体的取組として、文化財団による企画事業やふじのくに文化情報センターなど、文化政策推進上の文化財団の役割が明確に位置付けられている。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況(過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況)

行財政改革推進委員会意見 (経営健全性に係るもの以外)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
他団体との役割分担を整理 (H23)	○ <ul style="list-style-type: none"> 契約職員のプロパー化による組織力の向上 効率的な事業展開を図るため文化支援業務の文化情報センターへの集約など事業内容等と体制を見直し 	○ <ul style="list-style-type: none"> 県派遣職員数を見直し、職員のプロパー化を推進した。 県派遣職員数 (H23:7人→H30:4人)

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

1 財務状況

（単位：千円）

区 分	H27 決算	H28 決算	H29 決算	評価	備考（特別な要因等）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	24,547	43,785	42,316	A	
	経常損益 (a+b-e-f)	24,547	43,785	42,316	A	
	公益目的事業会計	-4,738	18,640	15,529	—	
	収益事業等会計	29,285	25,145	26,787	—	
	法人会計	0	0	0	—	
	剰余金	245,040	290,700	333,016	A	

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区 分	H27 決算	H28 決算	H29 決算	主な増減理由等	H30 予算	
資産の状況	資産	1,505,173	1,547,190	1,580,944		1,546,006
	流動資産	228,000	273,298	278,445		253,029
	固定資産	1,277,173	1,273,892	1,302,499		1,292,977
	負債	191,712	200,674	194,804		203,666
	流動負債	167,476	182,440	171,937		173,623
	固定負債	24,236	18,234	22,867	退職給付引当金の増	30,043
	正味財産/純資産	1,313,461	1,346,516	1,386,140		1,342,340
	基本財産/資本金	1,068,421	1,055,816	1,053,124		1,053,124
	剰余金等	245,040	290,700	333,016		289,216
	運用財産	0	0	0		0
収支の状況	事業収益 (a)	1,304,367	1,311,265	1,316,304		1,354,104
	うち県支出額	926,177	902,200	888,700	指定管理料の減	900,000
	(県支出額/事業収益)	(71.%)	(68.8%)	(67.5%)		(66.5%)
	事業外収益 (b)	11,227	11,994	10,314		8,496
	うち基本財産運用益	10,235	10,210	9,345	公債利率の低下	7,796
	特別収益 (c)					
	うち基本金取崩額					
	収入計 (d=a+b+c)	1,315,594	1,323,259	1,326,618		1,362,600
	事業費用 (e)	1,291,047	1,279,474	1,284,302		1,406,400
	うち人件費	170,490	189,057	182,367		188,106
	(人件費/事業費用)	(13.2%)	(14.8%)	(14.2%)		(13.4%)
事業外費用 (f)						
特別損失 (g)						
支出計 (h=e+f+g)	1,291,047	1,279,474	1,284,302		1,406,400	
収支差 (d-h)	24,547	43,785	42,316		(43,800)	

2 経営改善の取組の実施状況と評価

営業・経営努力等による予算を超える収入の確保と原油価格の下落による光熱費のほか、経費削減努力の継続により、経常黒字を確保した。

3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

--

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な運営努力を維持するとともに、収益の確保に努め健全な法人運営を継続し、収益黒字は特定費用準備資金として活用している。 ・財務的にも法人運営でも安定的に文化芸術の振興事業を実施できる体制を整えて、財団の設立目的である県民文化の振興を図り、文化振興基本計画で位置付けられた役割を担った。 	○	<p>経営面においては、計画的な維持管理業務などによる経費削減努力や積極的な営業活動の実施により、5年連続黒字を達成し、安定した経営状況を維持している。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況）

行財政改革推進委員会意見 （経営健全性に係るもの）	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
資金運用益の確保(H23)	○ 資金運用の基準を改正(H24)し、必要に応じて専門家から意見聴取するなど安全かつ安定的な資金運用を実施している。	○ 安定した資金運用を行い、資金運用益を有効に活用している。

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

IV 改善に向けた今後の方針

1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>・本県の文化振興と交流の促進のためのH29～33までの5年間のグランシップ第4期指定管理事業計画を策定しており、財団固有事業も含めて、着実に実施する。</p> <p>・特に、グランシップを拠点に県内各地で文化プログラムが積極的に取組まれるよう、グランシップ企画事業や県民の文化活動を支える取組みを展開する。</p>	<p>・文化財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与するために県が主体となって設立した団体で、設立以来、一貫して本県の文化振興の中核組織としての役割を担い、活動している。</p> <p>・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、静岡県文化プログラムにおいても、共創プログラム、県域プログラム及び地域密着プログラムへ関わっており、2020年以降もプログラムの内容を継続・発展させていくための施策推進の重要な担い手となっている。</p> <p>・経営の健全性については、公益目的事業単独では赤字であり、収益事業を黒字とすることによって安定した経営状況を維持している。今後も経営状況を維持するとともに、計画的に剰余金を活用した事業を実施するよう指導する。</p>

2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>・「上質で多彩をより身近に」「県民との繋がりと広域的な協働・交流」「安全・安心・快適な施設運営と経営の安定化」「働きやすい職場づくり」、を運営上の基本方針として財団を運営し、グランシップを拠点に様々な事業に取り組む。</p> <p>・特に、グランシップ企画事業については、事業の目的を「音楽文化の普及・振興」「文芸・美術等の振興」「伝統芸能の継承」「子育て世代への支援」の4本の柱に整理した上で戦略的に展開する。</p>	<p>・文化財団が展開するグランシップ企画事業や地域の文化活動の支援事業など、各種の文化振興事業は全て本県の文化振興施策である。</p> <p>・グランシップ企画事業については、年間を通して上質で多彩な企画事業を実施している。今年度からは企画事業展開に戦略目標を取り入れ、より充実した企画を提供できるように工夫している。</p>

V 組織体制及び県の関与

1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	H27	H28	H29	H30	備考(増減理由等)
常勤役員数	1	1	1	1	
うち県派遣	0	0	0	0	
うち県OB	1	1	1	1	
常勤職員数	31	34	33	34	育休職員の復帰
うち県派遣	4	4	4	4	
うち県OB	0	1	1	1	
県支出額					
補助金					
委託金	926,177	902,200	888,700	900,000	
その他					
県からの借入金					
県損失補償等					

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・損失補償等は期末残高

2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	指定管理料の積算基礎となる職員数を基本として、育休代替は労働者派遣で対応し、計画的な定員管理を行っている。なお、役員に関しては理事定数を見直し、29年6月から評議員9人、理事11人、監事2人とした。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常勤役員に県職員は就任していない。常勤役員は公募して選考しており、県OBに限定していない。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	平成25年度には県職員2人を削減し、財団職員へ置き換えするなど、派遣職員は必要最小限にとどめている。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	県の文化振興施策を推進するためには、県と文化財団との連携が必要不可欠であり、県と文化財団との施策推進における一体性や情報の共有化のためには、県職員の派遣は必要であり、派遣職員は文化財団において十分な役割を果たしている。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	文化財団に対する県からの支出金はグランシップの指定管理料であり、本県の文化と交流の拠点施設であるグランシップの運営管理に必要な支出である。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	○	指定管理事業について、県による外部評価委員の事業評価を受けた。 実施時期：29年11月、委員4名、公表の手法：県HP	・総合評価は、5点満点中、評価点「4.5 大変よく実施した」と判断された。 ・SNSを更に積極的に使っていただきたい。 ・職場の雰囲気に関心が持てるので、利用者としても気持ちよく使うことができている。
利用者アンケート	○	○	グランシップ貸館利用者に施設の使いやすさ、スタッフの対応等について、また企画事業の来場者、参加者等に満足度、内容等について、アンケートを実施した。 実施時期：29年4～30年3月、対象者数101,808人、回答者数19,024人、公表の手法：グランシップHP(29年度事業報告書を公表しており、その中に記載)	・急な備品追加の変更依頼にも素早く対応してくれた。 ・とても良い公演だった。また開催してほしい。 ・能楽に興味を持つことができた。 ・一人一人の音色が素晴らしく感激した。
利用者等意見交換会	○	—	グランシップ貸館利用団体等による利用者会議を開催し、要望、意見等を聴取した。 実施時期：30年2月、参加者5団体、結果非公開理由：参加者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	・職員に事前によく相談に乗ってもらい、安心して当日を迎えることが出来た。 ・ケータリングサービスを利用して懇親会を行ったが、見た目も華やかで参加者も満足していた。 ・荷物の事前受け取りサービスを可能にしてほしい。
その他 (モニター制度)	○	—	公募モニターによる企画事業の鑑賞後のモニター会議を年4回開催し、要望、意見等を聴取した。 実施時期：29年5月・9月・12月及び30年3月、モニター7名、結果非公開理由：モニターから意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	・一流の演奏でとても感動した。 ・日本の伝統芸能を静岡で鑑賞することができて嬉しかった。 ・スタッフの案内が丁寧で良かった。 ・パンフレットや冊子が色鮮やかでレイアウトも楽しさが感じられた。
その他 (利用者の声)	○	—	館内に設置した用紙及びWEBページによる県民、利用者の要望、意見等を聴取した。 実施時期：29年4～30年3月、意見数9件、結果非公開理由：利用者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	・富士山の新春写真作品展を見て感動した。 ・Wi-Fi環境を充実させてほしい。

○：実施している／公表している —：実施していない／公表していない

2 事業やサービスの見直し例

- ・1階と10階展望台でWi-Fiが使えるようにした。
- ・荷物の事前受け取りについては、貸館利用日の前日着に限って、警備員室で荷物を預かるようにしている。